



10月のキャロッピーデーは「さつまいも」!

言うまでもなく、菊陽町でも盛んに栽培されている「さつまいも」。前号でお伝えしたとおり、学校でも収穫を終えたばかりです（もっと美味しくするために熟成中です）。今回は、25日（火）に、「鶏肉とさつまいものナッツがらめ」でいただきました。本校区の、大村ノブ子さんのサツマイモ畑では、「紅はるか」と「金時」という2種類のサツマイモが植えられています。4月10日ごろ植え付けを行い、8月下旬から収穫が始まっています。霜が降りる前までには収穫を終わらせるそうです。今年は雨や虫が少なかったため、とても美味しいサツマイモができたとのこと。本日の献立は、「食パン、春雨スープ、鶏肉とさつまいものナッツがらめ、いちごジャム」でした。甘辛く味付けした「鶏肉とさつまいものナッツがらめ」はご飯によく合うおかずで、食が進みます。子供たちも喜んでいただきました。そういえば、昨年度、地域ふれあい交流会でいただいた石焼き芋は絶品でした。小ぶりだったとは言え、あっという間に3本平らげました。今年も、（レンジでチン！ですが）たくさん食べたいと思います。



前途洋々

行ってきました! 6年修学旅行 ～ 平和への旅 ～

10月27日（木）・28日（金）の2日間、6年生は長崎、佐賀へ修学旅行に行ってきました。これまで、訪問地に関して、じっくり下調べをしたり、講話を聞いたりして準備を進めてきました。旅行中、子供たちは、しっかりガイドさんのお話を聞き、必要なことをメモし、落ち着いて行動することができました。同行してくださったバスのガイドさんの説明がとてもすばらしく、私自身、改めて勉強になることばかりでした。行く先々でのみなさんの御厚意、保護者の皆様をはじめと多くの方々のお力で、この旅行が成り立っていることに、心より感謝申し上げます。すべての場所が学ぶべきことで溢れていたのですが、私が特に印象に残ったのは、長崎原爆被災者協議会での講話学習です。担任の山田先生によると、多くの子供たちも、とても印象に残ったと感想を述べていたそうです。講師は、陸門 良輔（むつかど りょうすけ）さん。陸門さんは、胎児のときに被爆され、その影響で耳が聞こえづらいとのことでした。御自身の経験、また、ご家族やご親族のお話をされたのですが、そのお話を聞きながら、人間は同じことを繰り返しているのだなと実感せざるを得ませんでした。「原爆におうた人間とは付き合わん」「(原爆が落ちた) 長崎の人は結婚式には呼ばない」「(原爆症で嘔吐している人に向かって) この食糧難に吐くなんて!」「(被爆したのだから) 結婚したら駄目よ。相手に迷惑がかかるけん。」など・・・聞いているだけで辛い言葉がお話の至るところに出てきました。人の命を奪ったばかりでなく、人と人の絆を奪ったのも原爆です。同じことが、部落差別、水俣病問題、ハンセン病問題、直近では新型コロナウイルスに関する問題などでも言えます。しかも、いずれも本人には何の責任もありません。やはり、正しく知り、相手を理解することが、誰もが住みやすい、人とのつながりがきちんと存在する世の中を構築する第一歩なのだろうと思います。そのような意味でも、今回の旅行では、子供たちそれぞれがいろいろと感じ、考える場面も多かったのではないかと思います。陸門さんの、「原爆は一瞬で人生を壊す」という言葉が非常に胸に残りました。世界を見渡せば、とても平和とは言いがたい、一人一人の人権が確立されているとは言いがたい状況があります。視野を広くし、もっといろいろなことに目を向けて行く必要があります。保護者の皆様、たいへんお世話になりました。

出島にて記念撮影



佐賀の宇宙科学館にて



平和集会の様子

